

《担当者名》 坊垣暁之、遠藤輝夫

【概要】

免疫システムは生体防御の中心的役割を果たしておりその破綻により様々な疾患が引き起こされる。これまでに免疫検査学IおよびII、輸血・移植学演習において様々な知識を習得し、さらに実習を通じて免疫学および輸血学の基本的なしくみを自らの手で確認してきた。しかしながら、臨床現場において免疫異常が関わる疾患を理解する上では、これまで学んだ知識をさらに有機的に連結していく必要がある。そこで本講義では、国家試験過去問などを活用して免疫学、輸血学領域について様々な視点から眺めることで、免疫学、輸血学について統合的に理解することを目的とする。

【学修目標】

- 1) 免疫検査学IおよびII、輸血・移植学演習で学んだ知識を整理し、免疫検査の臨床的意義を習得する。
- 2) 3年次までに履修した講義で得た知識から国家試験問題を理解する能力を身につける。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1 }\n15	オリエンテーション 免疫システムとその異常	・輸血領域を含めた免疫システムとその異常について設問の解答、解説を行う。 キーワード：免疫システム、輸血、移植、免疫異常による病態	坊垣暁之 遠藤輝夫

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験100%

【教科書】

窪田哲郎他 編集「最新 臨床検査学講座 免疫検査学」医歯薬出版 第1版 2017年

【備考】

適時、プリント等の資料を配布します。
クリッカーを使用した双方向型授業を行います。
Google Formを用いて課題を提出します。

【学修の準備】

教科書の該当する項目を予習し、専門用語の意味などを理解しておいてください（80分）。
講義で用いた資料に関して復習し、理解を深めてください（80分）。

【ディプロマポリシーとの関連性】

- （DP2）臨床検査に必要な知識と技術を習得し、先進・高度化する医療に対応できる実践能力を身につけている。
- （DP4）臨床検査のスペシャリストとして、進歩や変化に常に興味を持ち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につけている。

【実務経験】

坊垣暁之(医師)、遠藤輝夫(臨床検査技師)

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での実務経験を活かし、免疫検査学、輸血学の基礎的および臨床的な講義を行う。